

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 山本土人

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



『興居島 由良地区の山本です。前会長より年上ですが、なにぶん不慣れですので、よろしくお願いします。』

設立11年目にして、初の二代目会長が誕生。初代 田中会長の重責を肩代わりすべく、三学年も年上の新会長が、満を持して、大役を引き受けてくれました。やはり組織に新陳代謝は必要です。これを機に三役全員を刷新した松山離島振興協会。新体制となった協会の新たなスタートを見守っていただき、引き続きのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

松山離島振興協会は、平成二十八年五月二十九日、三津浜地区の松山市地域交流センターで第十一回総会を開催しました。奇数回の総会は改選時で人事案件が諮られることから、自ずと緊張感のある会となります。丸十九年が経過した節目の総会で三役の交代劇がありました。平成十七年度に松山市が市民に呼びかけ行われた『みんなのまつやま夢工房』という広聴事業。三十六項目に及ぶ市民からの提案を当時の中村時広市長に届けました。そのとき市長から投げ返されたボールには、「住民にも汗をかいてほしい」とのメッセージが込められていました。そして、平成十八年四月十五日、松山離島振興協会が発足。自らの提言を実行していくために、実動部隊としての組織が立ち上がったのです。それから十年。協会をけん引してきた田中政利会長の引退宣言。それに伴う新体制の模索。「次なる十年のスタートとして、組織の新陳代謝を図ろう」「十年前に戻って、組織の目標を捉え直そう」「心を一つにしなれば、島に将来はない」さまざまな思いを交錯させながら、人事案が練られました。

新会長には興居島 由良地区の山本土人副会長、副会長は中島 宇和間地区の脇坂千恵美理事と、釣島出身、由良地区在住の石本憲三理事が推挙され、満場一致で新体制が承認されました。協会の功労者 田中会長には、協会の広報部門を取り仕切る顧問に就任いただきましたので、しまづくりでいつもの確なアドバイスをくださる前田眞顧問、地域産業を実践的に指導してくれている山田寿顧問と、本当に強力なバックアップ体制が整いました。また、協会の要である俊成雅直事務局長は留任、新たな会計に古野真理子副会長が就任しました。田中顧問は引き続き、まつやま里島ツーリズム連絡協議会会長を務められますので、協会との連携による活性化の取り組みがより深められるなか、山本会長のリーダーシップの下、忽那諸島のさらなる発展へ向け、新生 松山離島振興協会が始動します。乞うご期待です。

松山離島振興協会 新三役のご紹介

山本土人会長 / 脇坂千恵美副会長 / 石本憲三副会長



興居島 由良地区出身の技術者 宮本武之輔翁の胸像
除幕式での記念写真。

最初のご紹介は、山本土人会長、昭和十八年生まれの七十三歳。名前は、「ことひと」と読み、地元興居島では「ことちゃん」の愛称で親しまれています。現在は由良町にお住まいですが、元々は門田町の出身。定年後、島に戻るまでは神戸市に在住し、関西電力にお勤めでした。二人の息子さんは結婚し、男の子のお孫さんがそれぞれにいらつしやいます。山本さんは、Uターン5年目で由良町内会長に選任されると同時に、興居島各町連絡協議会会長に就任。三期六年を務め、先頃、後任の中川保新会長に会長職をバトンタッチされました。

山本さんが興居島に戻ったのは、平成十七年度。二市一町の合併を受け、「みんなのまつやま夢工房」が開催されていた頃で、十八年四月に、松山離島振興協会が立ち上がったとの噂を聞き、「どんな集まりだろう」と思っていたそうです。その年、由良町内会の役員として協会活動をより身近に感じ、翌十九年度に協会会員となりました。その後、二十二年から協会の副会長を三期六年務め、二十八年の第十一回総会で、前田中政利氏から新会長の座を引き継ぎ、これから先の協会運営に



ノリのよさは忽那一。
「やっこ振り」の宇和間の女、ここにあり。

期待がかかるそうです。

つぎに、中島の宇和間生まれ、宇和間育ちのお転婆娘 脇坂千恵美さんを紹介します。

うん十年前、うら若き乙女だった千恵美嬢は、地区内の脇坂家へ嫁いで以来今日まで、

宇和間のために精力的に活動してきました。そんな彼女も来年は還暦ですが、中島で「千恵美さん」といえば彼女を指す、というくらい名の知れた存在で、前任の古野真理子副会長に次ぐ中島の女性リーダーともくされた逸材。現在も、中島トライアスロン競技部の副部長を務め、地元女性グループ「姫やつこ」の主要メンバーでもあります。「与えられたポジションを楽しむ」がモットーの彼女には、初代の金澤泰子さん、二代目 古野真理子さんから脈々と続く協会の三代目女性副会長として、大いに期待されています。

さて、最後は、島の若きリーダー候補ナンバーワンのこの人です。釣島生まれ、松山育ち、再び戻って島を元気にし、今では興居島の柑橘農業の中心的担い手として奮闘中のこの人。先輩からは「憲」、仲間からは「憲ちゃん」、後輩からは「憲兄」と慕われる石本憲三さんです。昨年めでたく還暦を迎えたばかりで、島ではまだまだ駆け出しと思われ



何の説明も言葉も要らない。憲ちゃん夫妻の至福の時 in TDR。

がちですが、長男 和也くんをしつかりと後継者に育て、4haもの園地を切り盛りする松山市柑橘農業界の期待のホープなのです。そんなやり手でありながら、性格は意外とシャイ。愛妻 晴美さんの天真爛漫さのおかげで石本家のバランスは保たれており、協会でも長年、縁の支え役を務め、「そろそろ出番では」の声にやっと腰を上げた憲三さん。興居島、釣島はもとより、忽那諸島全般から慕われる兄貴分になってほしいと願っています。

新たな三役に、温かいご声援をいただきますとともに、前任者同様のお力添えをいただきますようお願いいたします。

9月22日(祝日) 【瀬戸内探訪クルージング】

『大崎下島の御手洗地区をぶらり歩く旅』



どこか郷愁の漂う、御手洗地区の古い町並み

昨年度の瀬戸内探訪クルージングで訪ね、「もっとゆっくり滞在したかった」の声をいただいた大崎下島。正式には呉市豊町に属するこの島に、江戸の昔からその形を変えていない地域があります。御手洗というその集落は、風待ち、潮待ちの天然の良港として、また、花街の装いを併せ持つ華やきの界隈として、大いに栄え、にぎわいました。

今でも街の角々に、



松山ゆかりの俳人 栗田 樽堂の終焉の地 御手洗

往時を偲ばせる建物が数多く残り、大勢の地元ガイドが、観光客を古き良き時代にタイムスリップさせています。

今回のクルージングは、恒例の釣島灯台見学に加え、御手洗地区をゆっくりと散策する企画。松山観光港を出港し、釣島灯台官舎等見学の後、大崎下島をめざします。

開催は、九月二十二日(祝)。集合は八時、解散は十七時の予定。参加費は中学生以上五千円、小学生以下三千五百円。お申し込みは石崎汽船 水野さんまで。電話九五一〇一二人です。ぜひ、ご参加ください。



「今話題の低山トレッキングなら、すぐそこに小富士山があるじゃない」と、忠政氏が言ったと言わないとか!?

興居島のシンボル 小富士山への登山客が、この頃とみに増えたのは、整備事業完成のこけら落としイベントに、元 競歩日本代表選手で、現在は健康運動指導士として活躍中の忠政ひろふみさんに関わっていただいたことがきっかけとなっています。というのも、先頃、忠政さんに、NHKのニュース番組の低山トレッキングコースを紹介するコーナーで改めて、小富士山を紹介いただいてからというもの、手近な低山としてのこの山の魅力が多くの方たちに知られるようになり、やがて口コミされ、静かなブームを呼んでいます。さて、実はこの山の管理に一役買っているのは松山西警察署のみなさん。山頂付近の警察施設の管理の意味合いもあって、所轄の西署にご協力いただき、快適なトレッキングコースが保てているのです。



「2016 シーサイドキャンプ in 怒和島」報告

今年で3回目となる怒和島での「シーサイドキャンプ」。主催の松山子ども劇場 21 との連携で、市内の子どもたちに、島の魅力と自然学習のすばらしさを伝えることができます。

今年のキャンプ日程は8月6日～7日。7月24日の親子説明会では、初めて田中顧問が島の説明を行いました。そのときは大げさに聞こえたであろう干満の差を島で目の当たりにした子どもたちは、自然の不思議を肌で感じ、すべての出来事を意味あり気に観察し始めました。生きることを



実感させる島学習に、ぐいぐいと引き込まれる子どもたち。受け入れてきた田中顧問も、この事業のすばらしさを実感し、賞賛を贈る一人です。なにより感心させられるのは、スタッフの意気込みとその経験値。今回は体調不良から2名の離脱者が出てしまいましたが、子どもたちを動揺させない配慮がなにより光ります。また来年もこの事業に精一杯協力できるよう、日頃の地道な活動を続けていきたいと思っています。

【地域産業部】

久しぶりに「道後湯あがり朝市」に出展しました。忙しさにかまけて、長らくお手伝いをサボってきた自身を反省しつつ、対面販売の大切さを思い出しました。

何年かぶりに立った「にきたつの路」。店の激減に驚き、商売のきびしさを感じつつも、そこには本物を求める消費者のニーズの高まりが如実に表れていて、その双方を見極めながらものづくりをしなければならないと実感しました。なにしろ、美味しいものを届ける醍醐味は作り手だけの特権ですから。

《お問い合わせ・お申し込み》
副会長 石本憲三
Tel.961-2033



【観光振興部】

前回に引き続き、「瀬戸内探訪クルージング」で大崎下島をめぐる予定です。御手洗地区という町並み保存地区は、まるで昔にタイムスリップしたような街の佇まい。私たち、海上運輸の仕事に携わる者としても、心休まる数少ない場所です。私の住む中島にも一部に風情豊かなところがありますが、地域を挙げた取り組みとして、御手洗地区は他に例を見ない空気感を漂わせています。

ぜひ、ご一緒に散策いたしましょう。お待ちしております。

《お問い合わせ・お申し込み》
部長 村上良二
Tel.997-2038



【しまづくり部】

怒和島で私が管理する、通称「電気の家」には、一年を通じ多くの旅人が訪れます。「電気の家」の名の由来は、この島に電気を通した功労者の働きへの、島民の賞賛に他なりません。

さて、最初のきっかけをよく覚えてないのですが、この家で濃密な時間を過ごした「風の民」が、恒例で私に贈ってくれるようになった風鈴は今や庭中を埋め尽くし、にぎやかな笑い声のように日々私に語りかけてきます。島の大学の雰囲気やを湛えながら、どこか優しく旅人を迎え入れるこの家には不思議な魅力が宿っており、そのことを遠くに住まうそもそもの家主一族に伝えながら、今日も、ふらっと訪れる旅人たちの人生に、少しばかり関わっている私です。

《お問い合わせ・お申し込み》
顧問 田中政利
Tel.999-0524



忽那諸島の最新情報はHPチェックがいちばん！

<http://island-matsuyama.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆
☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆